

アツくておもしろい、若手農家が糸島で活躍中です！

糸島の農業を元気に

若手ファーマーズの

古重カ NO.99



ハーブの収穫風景です。
ハサミで1本1本丁寧に収穫します。

25馬力のトラクターは、畑仕事の力強い相棒です。

糸島市志摩桜井
浦光彰さん
(29)

◆農業経営の内容を教えてください

露地栽培で夏はカボチャ、冬はダイコンやキャベツを約1畝生産しており、就農時に母の勧めで始めたハーブを約5畝栽培しています。

◆就農のきっかけは？

工業大学を卒業後、2年間家電関係の会社で営業職に就いていました。

4代続く農家の一人っ子だったこともあり、幼いころから農業を継いでほしいと両親から言われていましたので、いずれはと考えていました。

◆心掛けていることは？

子ども達に安心して食べさせられる物を作りたいと考えています。

そのため、農薬や除草剤はできるだけ使いません。

10年以上前に母が始めたケールを、昨年まで完全無農薬で作って来たので、害虫の

発生プロセスや時期も分かるようになりました。

まずは現在の主力作物のカボチャ、ダイコン、キャベツの基本的な栽培方法をマスターする事が先決ですが、その中で害虫に関する知識や経験が活かされればと考えています。

あと、身体が資本の仕事なので、体調管理には気をつけています。

◆将来の抱負は？

昨年からの栽培計画を私が立て、両親にアドバイスを受けています。そのアドバイスを基に、1つ1つの作業を完璧にこなせるようになることが直近の目標です。

将来的には規模を拡大し、更に経営を安定させたいと考えています。

そのために機械化を進め、労力削減と効率化を図ります。

子ども達が自分で農業を選んでくれるような家族経営を目指します。

今月は就農して4年目、糸島市志摩桜井で野菜作りに励む浦光彰さんを紹介します。

青年部が小学校の授業に協力 7月2日(金)・5日(月)

青年部一貴山支部(溝口幸典支部長)は、地元一貴山小学校5年生の授業に協力し、代掻きや田植えの支援を行いました。

溝口幸典支部長が「代掻きは水と泥をなじませる目的があります」と説明。子ども達は田んぼに入って代掻き代わりの「泥遊び」を思いっきり楽しみました。

田植えでは、青年部員が田植え機で実演。子ども達を田植え機に乗せ、楽しさを体験してもらいました。

子ども達は久しぶりの校外体験に笑顔を見せていました。



久しぶりの校外体験を楽しむ子ども達